

いじめと暴力 飲酒・喫煙…

# 映像使い 予防教育

## 鳴教大がプログラム

鳴門教育大学は9日から、鳴門市内の小中学校4校を皮切りに、映像などを使って、いじめや喫煙を予防する教育プログラム「TOPSELF」のちと友情の学校予防教育」を始める。5年間、県内外の学校で実践し、データを蓄積する。

プログラムは、いじめと暴力、ストレスとうつ病、生活と食習慣、薬物使用や飲酒・喫煙など、現代の子どもが抱える4種類の問題に対応している。

授業は生徒が4〜6人のグループに分かれ、同大教授らが8〜12回にわたって行う。大学が制作した映像を見たり、運動したりすることによって、生徒が自然と問題点に気づき、解決法や改善策を学

## きょうから 鳴門の4小中校で開始

ぶことができるという。

このうち、ストレスの低減に取り組む鳴門西小では、5年生の児童が「宝探し」という映像を見る。登場人物の会話からストレスの感じ方には、個人差があることを学ぶ。その上で、心の過度の負担とならないよう前向きに考えることの大切さを理解する。気持ちをリラックスさせるための呼吸法も実践する。

大学は途中で3回、生徒から意見を寄せてもらい、プログラムの効果を検証する。同大予防教育センターの山崎勝之所長は「子どもも大人も抱えている問題は同じ。幼少のころから、予防教育を行うことで将来の問題の発生が防げる」と話す。